

令和6年度飯山市美術館運営協議会（第1回）会議録

開催日時 令和6年（2024年）5月31日（金） 15:30～17:00

開催会場 飯山市公民館 101号室

参集者 （敬称略）委員：廣靖彦 千坂経悦 飯塚みずき 吉越隆師 篠原敦子 明石洋一 佐藤環
欠席：阿部拓也 前島憲一郎
教育委員会：山田晃（教育長） 田中良則（文化振興部長）
井端伸介（美術館長(兼)美術館係長） 木村友子（美術館職員）

1 開 会

2 辞令交付 山田教育長から飯塚みずき委員に辞令交付

3 あいさつ

会 長： ごあいさつさせてもらう器ではないのですが、年齢を重ねまして何かお役にたてることがあったらと思ってやらせていただいております。

テレビを見ていてもニュースを聞いていても何をしてもなかなか大変な世の中になってきたと思うのですが、文化的な美術館ももちろんそうなのですが、そういうところでの活動がますますある意味で必要になってきたかのではないかと最近は特に感じております。

この企画も大変だったと思いますが、前回のブッダと白隠禅師展、今回も非常に大変な企画をしていただきました。皆さんにご協力いただいて、こういった機会に出来るだけ多くの方に鑑賞していただけたらと思います。私自身は大したことはできませんが、一緒に頑張らせていただきたいと思います。よろしくお願いします。

教育長： 皆さんこんにちは。この4月より教育長を務めさせていただいております山田晃と申します。よろしくお願いいたします。

本日お忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

日頃より飯山市美術館の運営にご支援、ご協力いただきまして誠にありがとうございます。この場をおかりしましてお礼を申しあげます

ただいまご挨拶をいただきました廣先生ですが、私事なのですが、栄中学校に勤務していたときに美術の先生が見つからず、実は無理を言ってお願いして年度途中から来ていただき、そのままずっと子供たちとともに美術をやっていただいている授業の様子を見させていただきました。全くおかわりなくご活躍されていて、本当に久しぶりにお行き合いしてうれしく思っております。

また、こういう立場で同じようにお世話になるということで何かご縁があるなと思っております。先ほどお話があったのですが、いつも企画が2つのところ4つということですが、今も廣会長からお話があった白隠禅師の関係も非常に良い企画展だったと思いますし、これからも良い企画が計画されていますので、市民の皆様をはじ

め、多くの皆様にみていただきたいと思います。

昨年から、市内の小中高校生が企画展を鑑賞する際に、美術館でバスを手配して送迎をしたとのことで、数えてみましたが述べ6校から400人以上の児童生徒が企画展を見学できたということでとても嬉しく思います。また今年も企画展がありますのでさらに是非多くの、私の願いといたしましては、すべての子供たちが見に来てくれると嬉しいです。学校現場もお忙しい中ですが、企画展の鑑賞についてご配慮をお願いできたらと思います

併せまして令和7年度以降の企画展について皆様からご意見いただいて、こんなテーマはどうか、こんな方はどうかといったご提案をいただけると、さらにいい企画展が計画されていくのではと思っています

本日は、令和5年度の事業報告、また令和6年度の事業計画などを審議していただきたいと思いますので、ご意見をお願いします。今後とも委員の皆様のお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

4 自己紹介

(各自自己紹介)

5 協議事項 ※委員からの主な質問、意見および事務局の回答等

(1) 平成5年度事業報告について

会 長： 協議事項の5番の(1)から、平成5年度事業報告についてよろしくお願いします。

事務局： 資料のとおり説明

会 長： ありがとうございます。いろいろ説明をしていただきました。特に立派な資料を作っていたいてびっくりしておりますが、何かご質問とかご意見などありませんでしょうか。

直接には別になんの関係もないのかもしれませんが、僕が年配の方の美術教室を月に1回ぐらい見てほしいと言われて飯山でみさせていただいているのですが、図書館入口の通路のガラスケースの中に並べさせてもらったり、2ページ掲載されている岩上隆静さんの作品を模写した作品も並べてあったと思います。やっぱりできるだけ市民の方に足を運んでいただいて何かの形で参加していただくという意味ではこんな立派な資料を作っていたいたのも大変大事なことでと思いますし必要だと思います。

何かご意見質問等あれば、どなたでも結構ですので何かございませんか。ないようでしたら次に行きたいと思います

(2) 令和6年度事業計画について

事務局： 資料のとおり説明

会 長： 色々具体的にご説明をいただきました。いろいろ困難の多い中でたくさんの工夫をしていただいてありがたいと思っておりますが、全般を通じて何かご質問とかご意見とかありましたら伺いたいのですが。

特に何かございませんか

委員： お疲れ様です。入館者数の関係で2月にお話ししました入館料の検討は進めていただいているのでしょうか。

事務局： 今後の方向といたしましては、ご意見いただきまして、通常の入館料を増額する方向で事務を進めまして、来年の4月以降に改定料金で入館料をいただけるように進めたいと考えております。それから、企画展については、白隠禅師展は通常の大人300円としましたが、猪瀬清四郎彫刻展では開催経費と収入を計算し、通常300円の入館料を600円にいたしました。この後の移動展は県立美術館の方針で、2週間程度ですが、その期間は入館無料とし、さらに移動展の次の長谷川青澄没後20年展では、500円あるいは600円にするのかということを開催経費とのバランスをみて考えたいと思っています。どこの美術館でもというわけではないのですが、人件費を除いた開催経費の2割を入館料収入でまかなうのは難しいと聞いたことがあります、このような数値を参考に計算して今回は600円ということをやってみたいと考えております。

委員： 今、県立美術館の移動展の入館料無料に関しては、県立美術館の方針だとおっしゃってましたが、これは県立美術館のほうではある程度のバックアップはないということですか。

事務局： バックアップといいますか、開催経費自体が全部県の予算です。

委員： 県の予算で開催されるということですか

事務局： 日通による展示替えや作品の運搬料、持っているものは全部県立美術館のもので、かかるものはおおよそ、運搬・展示とポスター・チラシの印刷代ということになります。それらはすべて県立美術館の予算で行います。5年か6年前に移動展を当館で開催していますが、その期間中の入館料収入は県立美術館の収入になります。

委員： では、結局我々の運営に対する費用っていうのは全く無視をしているということですよ。運営に関して期間中は県のほうからスタッフが来られるのですか。

事務局： 受付業務は飯山市の美術館職員なのですが、例えば、常時配置する監視員2名の経費は全部県立美術館の予算です。

委員： わかりました。

会長： 非常に意欲的に取り組んでいただいておりますが、ご質問等ありましたらどうぞ。

委員： この市民ギャラリーをやっていることについて我々は何も知らなかったのですが、それはどこかでやってくれるのですか。

事務局： 市民ギャラリーというのは、公民館の廊下や2階の講堂の前の壁面などにピクチャーレールがついていて作品展示が可能なのと、図書館入口のガラスケースの中にも市民の方々にご自身の作品を展示していただいています。基本は自身で展示をしていただく、必要に応じて美術館職員もお手伝いをしてということになりますが、まずはご本人が中心になって展示をしていただくということでお願いをしています。

委員： やっているんだね。

事務局： 何年前からかはっきり記憶はないのですが、前は公民館でやっていたんです。それを美術館で担当するようになったということです

委員：これだと（資料）、美術館の中にある市民ギャラリーということを書いてますが、これについてはもう少し市民に周知をしてもらって、ここを活用したいとなればいいんですけど。

事務局：この件について広報活動は出来ますが、お金を出して展示を希望される方がなかなかいないという状況があります。

<参考>

飯山市伝統産業会館条例

（施設等使用料）

第15条 ギャラリー等施設及び備品の使用料は、次のとおりとする。

区分	ギャラリー	ギャラリー及びロビー	備品（吊金具、展示台及びパネル）
市民団体（1日につき）	3,660 円	5,230 円	無料
市民団体以外（1日につき）	7,330 円	10,470 円	無料

制定：昭和57年6月25日条例第22号

最終改正：令和元年7月8日条例第1号

委員：市民ギャラリーと謳っているしね。そういうところへ行ったら、美術館の中でそういうことが出来るとわかれば市民もありがたいと思うが。できるだけ前向きに検討してください。

事務局：はい。

会長：他に何かあれば、この際何でも出してください。ほかにありませんでしょうか。

委員：感想なんですけれども、昨年の岩上隆静展の時に開会式に出させていただいたんです。館長が丁寧に1枚1枚見させてくれて1人でみるよりもすごくよかったと思っています。来場者の方にも説明みたいなのはあるのですか。

事務局：美術館の職員は、正規職員が私1人で会計年度の方が2人です。私も会議で出ていることが多く、なかなかいつもというわけにはいきませんので、可能な範囲でということになります。

委員：通知をいただき、開会式に出させてもらって本当によかったと私は思いました。

事務局：ありがとうございます。

会長：可能であれば1回でも2回でも。前にもお話ししたと思いますが、1回そこへ足を運ぶのと運ばないのではそれからの態度が変わってくるような気がします。目の向け方も変わってきます。大変なこともいっぱいあると思いますが、僕も見させていただいて本当によかったなと思いました。

委員：説明も全部デジタル化して、QRコードで聞けるようにしたらどうですか

委員：500円で貸し出すとか

事務局：前向きに考えさせてもらいます

会 長： できるだけご意見、できるかできないかはなかなか色々問題があって大変だと思いますけど、質問していただくことで道が開く可能性があると思います。ほかに何かご意見ございませんか

委 員： 昨年もそうだったんですけど、企画展は利用させてもらおうと思っています。事業計画の５番（市内の小中学生および高校生の企画展鑑賞機会を増やす取組み）はどこまでやれるのかと思って資料をみていて、猪瀬さんと同じ高校の卒業生ですけど、今回の企画展を見て子供たちが何を思うのかと。

それと美術館に若い子たちが集まってくるというのが少ないと思います。こうゆうところに若い子たちが来れば活気があって前に進めるような気がします。、それと企画の中身になると思うんですけど、もっとポピュラーなことを打ち出していくとか。

私「芸術新潮」という雑誌をずっと購読していますが、最近の芸術新潮って漫画です、ほとんどが。

今の若い子たちが興味をもつような内容を企画として持ってくるのもいいのではないかと思います。一昨年だったか、水木しげるの企画展が水野美術館であったんですよ。若い子たちが結構来ていましてワイワイしているんです。いわゆるデジタルじゃないんですよ。みんな絵で描いている、そんなポピュラーな企画展があると面白いと思います。

会 長： ほかにご意見があれば。僕もやっぱり企画づくりが大変だと思うのはどうしてもやっていくとなると予算のこととか、どうやって手続きしたらいいのかとか、いろんな問題が出てくるとは思いますが、しかし、まず出してもらってその中で可能なものをしていくというのが大事ではないかと思うので、どうぞこんなのだったらと思うのがあれば、この機会にだしていただいたらありがたいのですが。

委 員： 学校の授業のスライドも２時間連続で美術がとれるような形に変えてもらってというのも考えました。ではどういうふうに鑑賞の授業に入れていこうか考えたときに年度当初考えた自分の内容と組み込んでいくところがまだ見えてなかったりするところがあるんですけども、授業とは別で、美術部担当をしていて昨年土日に美術館見学へ行こうということがあって、県立美術館さんのほうにいったことがありました。

私が美術部担当になってから、美術館へ一緒にいくことは初めてだったんですけど、初めて美術館へ行くよという子供たちもいて、実際すごく楽しかったといってる子供たちが多くて、結構美術のポスターとか貼ってあると、先生これまた行きたいとかいってくれたんですよ。きっかけとして、美術館を知らなかった子たちも楽しかったなあという経験を小中高校で作れる。前行ったときは、写真を撮ってきたりとか、なんか体験活動みたいなのところにも行って、一緒に作ったり、こんな素材で作ってるんだと思ってもらえるようなことがあると学校に戻ってきたときに、美術科としてもぜひ美術館を見てくださいということができるかなど。そんなふうにしてみたいと思っております

会 長： 僕も前にお話しさせてもらったことがありますけど、定年まで大阪で美術で高校に勤めておりましたが、その時も前にこの場でお話したこともあるんですけど、大阪では年に

1 回高校展というのをやっていてほとんどの学校の美術部でも授業でも良いのですが、それを市の大きい美術館の 1 階部分を全部借りてそこでやるんです。先ほどのお話のとおり、1 回足を運んで、そこで何か面白いものがあつたりすると、やってみたいという機会になりやすいと思います。飯山は人口も少ないから大変だとは思いますが。栄中学校で授業させてもらってますけれども、5、6 人の授業というのは大阪にいるときは理想だと思いました。それは 40 数名のクラスが 1 学年、高校だと 10 クラス以上あるわけですが。ものすごい人数です。分かれてるからもちろん全部じゃないのですが、そうすると大変だけれども色々な人間がいるということは、いかにおもしろいかということが伝わってくるのです。栄中学校で今やらせてもらっていますが、3 年生なんか 2 人です。2 年生と 1 年生がそれぞれ 5、6 人くらいですよね。そうすると確かに生徒は嫌がるほど目が行き届きますよ。作品の質もそれなりのレベルまではいけると思うのです。そうですが、もっと大事なものが、同じような年齢とか、ほかの学校がどのようなことしてるか見れる機会は本当に大切なことだと僕は思います。機会があればですが、大阪では府の中心に市があるからどこからでも来やすいのですけれども、長野県は大変だなというふうにも考えたことはあるのですが、これはちょっとできるかなと思いました。

やはり機会がありましたら、美術館で頑張っているいろいろな企画展をしてもらって、多分少しずつ機会が増えてきていると思うのですが、若い人も中年層もそこで受ける刺激というのは違うと思いますのでそういう機会ができれば、いい工夫があつたら教えてほしいと思います。

他に何かございましたらご意見をおっしゃってください

委員： やはり美術館は一人で来たいとおっしゃる方もいらっしゃるんですが、一緒に行く方によって相当とらえ方が変化してくると思うので、親と行くのと友達と行くのと先生と行くのと仲間と行くのとでは、同じ場所でも感じ方は全く違うと思います。そういう機会をなんとか作ってあげたらいいなと思います。

会長： 大阪の話ばかりで恐縮ですが、大阪の市の美術館で何十校いや高校だけでも大阪府内であるわけですが、天井まで作品があつたりします。目立って評価されたらまた次の審査でその学校の持ち分が増えるんです。そんなこともあるとは思いますがやはり 1 回足を運んだり何かで感激したりしたことはものすごく大きなことだと思います。飯山の場合は人口の問題があるとは思いますが、今出していただいたようなことが、もし何かで出来たら。僕が来たときより最近、学生も美術館へ年に 1 回ぐらいいは行こうみたいな雰囲気も作っていただいているようなところもあるようだし、それは嬉しいことと思っています。

委員： 市内の小中学生が来る企画展の鑑賞を増やすという観点で、バスの関係を考えてくださってるのですが、例えば、中学生がバスを利用して美術館を会場として、大きい紙に絵をみんなで描くとかそういう形で体験みたいな形で美術館利用はどうか。子供たちが作品を作って、市内の小中学生の保護者の方たちに見に来てくださと呼び掛け、特にそのときに企画展を開催していると、きっかけを増やすという意味だったらできる

のではないかと。市内の小中学生が作った作品も見れて、ワークショップでこんなサイズの作品作りましたとかみたいなのがいいのではと。思い付きで話してしまったのですが。中学校も普段学校だけで作っている制作ではなく、クラスみんなで大きいものを作ってみよう、3年生の卒業制作ではないですけども、何か最後にみんなで共同制作みたいな形が、教室では出来ないサイズの作品ができればいいのではないかと。絵じゃなくても良いと思いますが、そういう活動をされているアーティストとか飯山市で活躍されているアーティストをお呼びしてそのような話が聞けたら子供たちにとってはすごく思い出になると思います。

(3) 令和7年度以降の企画展等の予定について

事務局： 資料のとおり説明

委員から意見等は特になし

(4) その他 特になし

6 その他 特になし

7 閉 会